

鳳 陽

第186号

令和8年1月15日

発行所 一般社団法人 鳳陽会
(山口大学経済学部同窓会)
〒753-0089 山口市亀山町3-1
TEL・FAX (083) 924-4361
E-mail : houyou99@crocus.ocn.ne.jp
印刷所 株式会社マルニ

—— 開学の祖「上田鳳陽」先生 (1769～1853) の教えを汲み ——

令和8年 新年のご挨拶



理事長 松永 昭博 (学21)

草の根活動で

同窓会活性化を

令和8年の新年を迎えました。すがすがしい冷気が日本列島に満ちています。鳳陽会の皆さまは正月を楽しくすごされたことでしょうか。

◇青春の塔

私は昨春秋、山口を訪れました。瑠璃光寺五重塔が青空を背景に、すつくと建っていました。美しい。見惚れました。

五重塔は令和の修復工事が長期間、行われていたが、ほぼ終了し、足場やおおいが取り外されています。

五重塔は私たちの青春の塔です。五重塔を見上げれば、学生時代の熱い日々を思い出します。

◇赤字体質の改善

さて、昨年10月25日、亀山の本部で理事会を開催しました。

本部予算は赤字が続いています。令和7年度予算は900万円を超える赤字です。

会員の高齢化や会費未納者が増えているのが大きな原因のひとつです。今後、会費納入を呼び掛けていき、収入増を目指します。

一方、支出の見直しに着手します。本部発行の会報は現在、年3回発行していますが、年1回とすることで検討しています。会報の

発行回数減少は本部HPの活性化によってカバーしたいと考えています。

また、通常(全国)総会は現在、東京、大阪、広島、山口、宇部・山陽小野田、北九州、福岡の主要7支部が持ち回り制で開催されています。

すでに令和8年II大阪、令和9年II北九州の開催は決定していますが、その後は通常総会の見直し、簡素化を進めていこうと思えます。

理事会は年3回、開催していますが、原則年2回として、必要があれば理事会を追加で招集、もしくはWeb開催とする案が浮上しました。

さらに寄附講座が大きな支出となっています。寄附講座の見直しを検討することとしています。

◇本部移転

理事会では本部移転問題を協議しました。

現在、本部は山口高商、山口大学経済学部があった亀山にあります。

吉田キャンパスから遠く、学生が本部を訪れる機会はほとんどありません。これが学生や若手・中堅会員の鳳陽会離れの大きな要因となっているのではないのでしょうか。

本部を近い将来、経済学部校舎内に移転したいと考えています。

◇代議員制の導入

しかし、本部移転には大きな課題があります。定款を変更しなくてはなりません。多くの正会員の賛同が必要です。定款変更を先送りすると、ますますハードルが高くなります。

今後、定款変更などの重要課題を機動的に採決していくために代議員制を導入して効率的に運用していきたいと考えています。全国の支部長の皆さんの意見を集約しながら、代議員制導入を進めていきます。

また、本部を移転するには現在の建物を解体し、現状回復したうえで山口県に返還しなくてはなりません。解体費用はおそらく数千円



瑠璃光寺五重塔

(撮影：学23 塩塚保)

行事予定

○令和8年6月20日(土)
・第96回 通常総会
於 シティプラザ大阪 (大阪市中央区)

学 部 短 信

次のとおり先生方の異動をお知らせします。(敬称略)

退職(令和7年7月31日付)

水谷 年宏 経営学科 教授

(広島国税局へ)

新任(令和7年8月1日付)

山中 英司 経営学科 教授

(広島国税局から)

新任(令和7年10月1日付)

土井 貴之 経営学科 准教授

(中村学園大学流通科学部准教授から)

齊藤 航平 経営学科 助教

(新任)

円かかるでしょう。これも先送りできない課題です。

◆支部援助費

鳳陽会が今日あるのは支部活動の賜物です。支部の活性化によって鳳陽会全体が活性化します。

令和6年、広島で開催された支部長会議で切実な要望として議題にあがったのが本部からの支部援助費の復活でした。

理事会で真剣に協議した結果、令和8年度から支部援助費を復活することを決定しました。

支部会員が前年度に納入した本部会費の3割を支部に援助する制度です。

この制度によって支部の活動費が確保され、さらには本部会費納入者が増えていく好循環を期待しています。

◆長寿社会を楽しむ

全国の多くの支部は令和7年、それぞれ支部総会を開催しました。コロナ禍で冷え込んだ支部総会が対面で開催されるようになり、新たな交流が生まれています。支部総会は各期の同期会をセットにすることが望ま

しいと思います。総会に参加して同期生と会う。これが同窓会活動の原点ではないでしょうか。

また、経済学部だけでなく、他の学部と合同で支部総会を開催する案も出されました。

同窓会活性化のツールとしてHPが大きな鍵になると思います。東京支部のHPには連日、投稿が寄せられ、活動が発信されています。1日のアクセス件数は150〜300件。500件を超える日もあります。

支部が独自のHPを運営していくことを願っています。全国の支部長の皆さん、もうひと花咲かせてください。

山口大学経済学部を愛する同窓生として草の根運動を展開してください。私も軽快なフットワークで現場に出ていきます。

日本は長寿社会を迎えています。同窓会活動に参加することで長寿社会を大いに楽しもうではありませんか。この1年、皆さまのご健康とご多幸をお祈りします。

住所・氏名等、変更された場合はお知らせください

住所・勤務先など変更がございましたら、事務局までご連絡ください。

連絡方法は下記の通りです。よろしくお願いいたします。

TEL & FAX : 083-924-4361

Mail : houyou99@crocus.ocn.ne.jp

ホームページ (<http://www.houyou.or.jp/>) からの変更手続きも可能です。是非ご活用ください。



鳳陽会

検索

鳳陽会の財務状況と経常費用の見直し

長く続く低金利時代を反映し、特定資産の運用益が減少するとともに、入会金や会費の納入も減っており、鳳陽会の経常収益は大きく落ち込んでいます。一方、近年の諸物価高騰の影響もあり、経常費用が増加し、鳳陽会の財務状況は厳しい状況にあります。

このため、これまでも経費の削減に努めてまいりましたが、今後、更なる経常費用の見直しを進めてまいります。具体的には、会報「鳳陽」の年3回の発行回数の見直しや、通常総会の開催のあり方、支部総会への本部の出席等について検討を進めています。

鳳陽会の活動は会員の皆様の会費によって支えられています。会員の皆様には会費の納入をよろしく願います。

「鳳陽会」は、皆様方の年会費を基本にして運営しています。

学園だより

英会話クラス、セブ夏休み留学について

山口大学特命教授 山根 和明(学15)

鳳陽会会員の皆様、いつも経済学部での発展のため、ご厚志感謝いたします。

8月から9月にかけてのフィリピンセブ島での英語特訓留学は、今回はわずか8名の参加となりましたが、皆元気に頑張つて帰国いたしました。参加したすべての学生が、「一生でこれ程楽しく勉強できたことはない!」と口々に感謝の言葉を述べていました。皆様



留学に参加した8名

感じました。さて、10月から後期の英会話クラスが始まりました。皆、喜々として授業に取り組んでいます。留学に参加した学生たちが、必修授業と被つてこのクラスに出られないのが残念なところではあります。このクラスはまず、45分間、ペアで種々の表現を練習します。残

りの45分間に鳳陽会にご援助いただいている、留学生7名が登場し2、3名に1人の助手の割合(私も一役担つて)で、英会話実践演習を行つていきます。

皆、下手でも大きい声で一生涯懸命話しています。必ず、よい経験になると思ひます。本当にありがとうございます。

フィリピン短期留学先を訪問して

松田幸三(学30)

会報「鳳陽」は、いつも楽しく拝読させていたただいておりますが、記事の中にTOEICや英語の短期留学の話題が近年上がるようになりなりました。時代が変わつたのだなど正直驚きました。が、同時に素晴らしい取り組みだとも思ひました。

2025年1月15日付発行の会報183号にもセブ島への短期留学が取り上げられていました。この時点で私は既に43年間勤務したゼネコンの定年嘱託契約が3月に終了し、4月からは土木專業の関連会社に再就職し、フィリピンに駐在することがほぼ決まっています。

した。

早速、鳳陽会事務局にお願ひして、ご担当の山根さん(ご本人からの要望でそうよぼせていただきます)とコンタクトをとることができ、山根さんの上京に合せてお食事をしながら短期留学などのお話を伺ひました。スケジュールをお聞きすると、同じ時期に学生さんがフィリピンにいらっしゃるということで是非ともお会いしたいと考えるようになり

ました。飛行機の関係でマニラではお会いする事ができず、授業のない8月30日土曜日、単身でセブに向う事にしました。

さて、45歳も年下の学生さんと何をどう話したらいいのか色々思案しましたが、言いたいことをA4一枚にまとめてお話をしました。

最初は学内の会議室で自己紹介などから始めましたが、やはり、お互いぎこちなさが残りました。事前にメンバーの一人から近くに素敵なカフェがあるから行きたい旨のリクエストがあり、学校を後にして、そちらに向かいました。まず、カフェで好きなもの

のを注文してもらいました。遠慮がちに「飲み物とケーキだけではなくジェラートも頼んでいいですか」という学生もいて、徐々に雰囲気も打ち解けてきました。学内では私が一方的に話をしたので、カフェでは質問に答える形にして話題を膨らませていきました。話題は学業や語学だけにとどまらず、日本とフィリピンの違い等についても質問があり、私の感じたこととお話ししました。



右奥の3人目が松田氏

私見ですが、英語でキチンと仕事のできる人の需要は高まっているようですが、供給側が追い付いていないと感じています。学生の皆さんには、今回の留学は差別化を図る絶好の機会であ

るといふようなこともお話ししました(外書及びゼミでお世話になった米谷先生の影響が出たようです)。今回、私からの助言及び激励ということでお伺ひしましたが、終わつてみると逆に希望に満ちて勉強しようという若い皆さんから刺激をうけ、私もフィリピンでもうひと頑張りしたいという気持ちが強まりました。今振り返つてみると、大卒卒業後母校に対して恩返しができていなかったと感じています。今回の私のセブ訪問と学生の皆さんとの時間が母校への恩返しになるのかについては疑問ですが、少しでも学生の皆さんが感じてくれることがあればこんなに嬉しいことはありません。このプログラムが続き、私がフィリピンに駐在中はまた学校に伺ひ、母校の後輩の皆さんと色々お話ししたいと思ひます。

フィリピン留学に 参加して

〇一年 倉光海利

私は、今回、セブ島留学に参加して、想像していた以上にたくさんのお話を学ぶことができました。

学習面においては、留学に参加する前の私は、会話で英語を使うことに抵抗を感じ、躊躇していました。日本での学校の授業は大人数で行われることが多く、日本人同士で受講するため英語を話さなくとも授業を受けることができ、受け身の姿勢で取り組むことがほとんどでした。この環境が英語を使うことへの障壁だったのだと思います。

しかし、語学学校では、講師と一対一で授業が行われます。英語でしか意思疎通ができない環境に置かれることで、これまで感じていた抵抗感や躊躇は感じなくなりました。もちろん初めのうちは緊張や戸惑いもありましたが、授業の回数を重ねるうちに無くなりました。英語を使うことが強制される環境に置かれることで自然と英語を使うことに慣れることができ、自分

から積極的に先生や他国籍の人と話そうとする姿勢が身についたのだと実感しています。

また、グループクラスでは様々な文化に触れることができ、すごくいい経験ができたと思います。中国やサウジアラビア、モンゴルの方など今まで交流したことのない方とも母国語は違っても英語を使うことで意思の疎通ができて、英語を話せることの良さを感じました。

語学学校での学びは単に語学力の向上にとどまらず、自ら学びに行く姿勢を持つことの大切さを実感できる点も大きいと思います。これらの授業ではこれまでのように受け身で授業を受けるのではなく、自分が表現したいことを正確に



伝えられるよう努力することが求められます。その環境が、私が主体的に学ぶ姿勢を強く促し、より一層英語を話せるようになりたいと思わせました。

また、語学学校では様々なアクティビティが日々行われ、ジムや売店などの設備が整っており、余暇の交流の時間はとても楽しく充実した時間となりました。そして、語学学校以外の思い出もたくさんあります。休みの日にはショッピングモールや海などたくさんのお楽しみがあり、日本ではできない経験がすることができて、とても楽しい時間を過ごすことができました。

これらの経験は非常に刺激的でこれから忘れることはないだろうと確信しています。

最後に山根先生をはじめ、このような機会を提供してくださった全ての方々に感謝したいと思います。この語学留学で得た経験や知識を今後の人生に生かしていきます。ありがとうございました。

わたしの就職活動

〇経営学科 企業法務コース

齊藤 瑠伽

私は民間1社・2官庁から内定をいただきました。

大学では部活・サークル活動はしていませんでした。それゆえ交友関係も少なく、どちらかと言うとインドアな学生生活で、目立った「ガクチカ」もなく面接は大の苦手です。逆に朝起きて布団の中でYouTubeやアニメを見てドラダラ過ごすのは大好きです。朝から起きているのに昼過ぎまでベッドから出なかつた日が数えきれないくらいあります。試験が近づこうと、面接の日が近づこうとその習慣は止められませんでした。それでも満足の結果になったのは、大学入学当初からやっていたことが活きたからだと思います。

1つは、資格取得です。単位認定ができる簿記を勉強していました。結果的に日商1級を取得し、多くの単位がもらえて、面接でも評価をいただき、一石二鳥でした。2年次にはTOE

ICスコアの単位認定も全て取得でき、この点は、私の大学生活の数少ない高評価ポイントだと思います。2つ目は、家業の手伝いです。接客や商品のポップ作成をしました。時給制のアルバイトではなく、成果主義的な仕事を経験できたのは、進路選びにも面接での話題にも役立ちました。

以上、自分の行動について2点挙げましたが、周りの人にも恵まれました。まずは家族についてです。家業は観光地の飲食店です。幸せなことに私が生まれて約20年間、何不自由なく育ててもらったと思います。そして、仮に就活が思うようにならなくても「とりあえずウチの店手伝ったら？」と手を差し伸べてくれたと思います。「上手くいかなくても何とかやる」という安心感がある上、「できるだけのことはしっかりやる」と割り切りやすい環境だったと思います。

次に、就職支援をしてくださった方々です。経済学部就職支援アドバイザーの高木さんには大変お世話になりました。初めてお会いした2年次の10月から、就活ネタの乏しい私のために何度も時間をとって自己PR作成等を親身になって支援していただきました。きつと他のアドバイザーの方も経済学部生各々の良さを引き出そうとしてくれるはずです。就活に不安がある方は早めに相談することをお勧めします！資格の中原の先生方にも、学習支援・書類添削等でお世話になりました。

最後に、友人についてです。地元の方とは近況を報告しあい、大学の友人とは就活に関する悩み等を共有しました。各々状況は違っても、言いたいことを言える関係を続けられたらと思います。

この場をお借りして、私を支えてくださった方々に改めて感謝を伝えたいです。私は、後輩に対して偉そうなことを言える立場ではありません。皆さん、飲み会をしたり、カラオケをしたり、家でドラダラしたりするのが楽しいのは非常によくわかるのですが、目標に向けて少しだけ頑張る時

間を作れると良いのではないのでしょうか。特に目標が無いという方は、とりあえず簿記とTOEICを頑張つて単位をたくさん取りましょう!

「秋芳洞」にもぜひ遊びに来てください!

○経済学科 富永愛実

私の就職活動は、結果としては成功したと言えますが、リスクのある選択をしたと自負しています。

私は公務員講座には通っていましたが、最終的に講座で勉強した内容のような一般的な公務員試験は全く受験していません。というのも、3年生の1月までは一般的な公務員試験を受験するつもりで毎日勉強を続けていたのですが、SPI方式で受験が可能な先行枠を受けることに決め、そこから一次試験までの約3か月は公務員試験とSPIの対策を平行行っていました。

第一志望の自治体は、一般枠と先行枠が併願できませんでした。先行枠で不合格となればもう入ることが出来ないというプレッシャーに加え、申し込み時の倍率が40倍以上と地方公

務員の中ではかなり高かったこともあり、日に日に就活に対しての不安が高まりました。論文対策、面接対策は公務員講座の先生に何度も何度もお願いし、1回の練習に2時間以上費やすことがほとんどでした。無事に第一志望自治体の先行枠で内定をいただくことができましたが、もし先行枠で不合格となり、国家公務員や他の自治体の一般枠を受験することになっていたら、直前期はSPIの対策ばかりで公務員試験の勉強がかなり疎かになっており、合格していなかったらどうかなと断言できま

す。皆さんは早め早めの対策を怠らず、いざ窮地に陥ってしまった際の選択肢を増やせるようにしてください。

自分からアドバイスできることは、日々の生活を今以上に大事にしてほしいということです。恐らく皆さんは、大学のほかにアルバイト、部活動・サークルなど、様々な場で過ごすことが多いと思います。その日常をただ普通に過ごしているだけではもったいないです。面接の基礎力はそのよ

うな普段の日常生活で培われています。

例えば、接客業でアルバイトをしている場合、お客さんから想定していなかった質問・クレームを受けることがあると思います。その時、咄嗟に対応しなければならず、慌てた経験はありませんか?就職活動も似たような場面に出くわすことがあります。用意していなかった質問をされると戸惑い、焦りと緊張が増して上手く返せない人がほとんどです。私自身も、接客業のアルバイトを3年続けていますが、始める前と今では他人とのコミュニケーションをとることに対して緊張することが減り、面接本番でも面接官の方に「あまり緊張していないように見えますね」と言われま

した。緊張せず、質問に困っても落ち着いて自分をしっかりアピールできたのは、内定をいただけた大きな決め手だと思っています。普段の生活を、就活の準備運動だと思つて少し意識するだけで大きな近道になるはずですよ。

就職活動は、自分をうまく売りこむことができた人が勝ちです。オンオフを大切にし、周りに流されすぎないように自分の軸をしっかり保つて、勝利を掴み取ってください。

○経営学科 職業会計人コース

湯川 怜音

私の就職活動は振り返ってみると非常に充実していたと思う。就職活動を始めたのは3年の5月頃で、年々早期化しているということもあり、企業合同説明会やオンライン説明会などがちらほら開催される時期だったため、就職活動に対する意識はある程度あった。

就職活動において、まず企業を決める基準は人それぞれだと思うが、「この企業に行きたい」「この業界で働きたい」と考える人は少なくない。私もその一人だった。私は金融業界志望であった。幼少の頃より父とニュースや新聞の内容について話題になることが多く、自然と経営・金融に興味を持つようになった。大学では、お金に関する学びを深めたいと考え、職業会計人コースに進み、会計の勉強に励んだ。大学受験の

勉強よりも楽しく、学ぶことの面白さを実感できた。私はこれまでの経験や知識を活かせ、更に社会人になつてからも勉強できる企業に行きたい。その中でも幼少期に習っていたラグビーや、現在も取り組んでいるオーケストラの部活動にてチームで達成する喜びを実感していたため、チームワークを重視する仕事に就きたかった。基準が定まっていたため、就職活動に対して無駄が少なかったと思う。

W E Bテストは中学校受験の問題と似ていたため慣れており、ほとんどの企業を通して行うことができた。一方で書き方や話し方が苦手だったこともあり、ESや面接には苦労した。友達や親などに見てもらっていたが、自身が一番成長したなと感じたのは人事の人

に実際に添削、指導をしていただいたことだ。大手金融機関の複数DAYインターン終了後、メンターの方にオンラインにてESの添削や面接の指導を受けた。「そもそもどんなキャリアを積み、自分の思い描いたキャリアになるか。チームプレイをしたり、お客様に寄り添つて最初に相談される人になつたりした結果どんなことを成し遂げたいか。自分がやりたいこと、自分らしく働くとは何か。」他にも沢山指導をいただいた。今思うと分からないことを分らないままにせず人に頼ることがよかったのかもしれない。場数を踏んでいくにつれESや面接に慣れていき、結果自分にあつた金融機関に内定した。

私がこの就職活動を通じて伝えたいことは、山口就職を第一に考えている人、県外就職を考えている人、係なく今まで行なつてきたことに自信を持つて行動して欲しいということだ。また、県外就職を希望する人は他大学の就活生が多くて圧倒されるかもしれないが、見方を変えればそれが体が個性となり、印象に残ることもある。堂々と自分のキャリアをじっくり考え、納得のいく就職活動をして欲しい。



支部だより

東京支部

第6回長州歴史ウォーク

晩秋の週末「神々の森を巡る」

鳳陽会東京支部は令和7年11月29日、第6回長州歴史ウォーク「神々の森を巡る」を開催しました。晩秋の週末、歴史の舞台を楽しく逍遙しました。

◆明治神宮の森

この日は朝から秋晴れ。東京都心には青い空が広がっています。

午前10時前、明治神宮鳥居前に同窓生たちが続々と集まってきました。長州歴史ウォークは回を重ねるごとに人気が高まっています。山口大学経済学部の枠を超え、理学部、教育学部、人文学部、さらには他の大学の卒業生も参加するようになりました。家族連れもいて、なごやかな雰囲気です。

明治神宮は明治天皇と昭憲皇太后を祀っています。大正時代に創建。全国から10万本にのぼる献木が寄せられ、多



くの人々の勤労奉仕によって植林されていったのです。百年の歳月を経て、うつそうとした森となりました。

社殿の南側に広がる御苑は江戸時代初期、戦国大名加藤清正の下屋敷の庭園でした。清正が掘ったと伝えられる井戸はパワースポットと呼ばれ、令和の時代も清らかな水がこんこんとわき出していました。

現役世代の男性は「明治神宮境内に自然豊かな庭園があるとは知らなかった」と話します。参加者たちは加藤清正の解説を聞いた後、社殿を参拝しました。

◆東郷神社

東郷神社の御祭神は東郷平八郎元帥です。10代で薩英戦争に臨み、明治時代、英国に留学。海軍士官となりました。日露戦争では連合艦隊司令長官として陣頭指揮。ロシアのバルチック艦隊を撃破しました。

東郷神社は若者や外国人観光客でにぎわう竹下通りの近くですが、境内は森に包まれ、静かな環境が保たれています。

歴史に通じる同窓生が東郷元帥の「運のよさ」と日本海海戦について解説。参加者たちは熱心に聞き入っていました。

さあ、昼時です。原宿で昼食休憩。気の合った友人同士でランチを楽しみました。

◆乃木神社

午後の部、スタートです。地下鉄の電車に乗り込み、乃木坂駅で下車。乃木希典(まれすけ)将軍が暮らした旧乃木邸に到着しました。

乃木将軍は長州ゆかりの軍人です。明治時代に起きた西南戦争では薩摩軍と戦いました。

日露戦争ではロシア軍の旅順要塞を攻撃。多くの軍

人が死傷しましたが、要塞を攻略しました。また、奉天でも戦い、乃木将軍の名は世界に知れ渡りました。

帰国後、学習院長を務め、明治天皇御大葬当日、自刃しました。乃木将軍が暮らした屋敷はフランス陸軍兵舎を基にして設計されました。自刃した部屋は今も残されています。

参加者たちは乃木将軍の劇的な人生について語り合いました。その後、乃木神社を参拝。全コースを完了しました。女性は「歴史を学びながら、楽しく歩くことができました」と笑顔で語りました。

解散後、有志は原宿で打ち上げ。ビールで乾杯し、晩秋の週末を満喫しました。(東京支部 塩塚 保)

名古屋支部

第142回

懇親ゴルフ会の開催

令和7年10月27日(月)、第142回懇親ゴルフ会を富士カントリー可児クラブ美濃ゴルフ場(岐阜県)で開催しました。

春の開催は平日に、秋の開催は土・日曜日ないし、



休日・祝日に開催するとの取り決めがありますが、今回は皆さんの希望により平日の開催となりました。

結果、残念ながら現役で活躍中の方の参加は少なく、わずか4名での開催となりました。それぞれ体調不良や仕事に差し障るとのことなど、やむなしの理由でした。

今回は前日までの雨も上がり、薄曇りの中での気持ちの良いラウンドを楽しむことができました。

成績は下記の通りで、最若手で素晴らしい飛距離を誇る権藤さん(学45)が見事に初優勝を飾られました。

次回の春の開催(第143回)は、令和8年4月17日(金)に美岳カントリークラブ(岐阜県)にて予定をしています。多くの方の参加をお待ちしています。

【成績】(ダブルペリア形式)

優勝 権藤さん(N71.8)
準優勝 川村さん(N78.2)
第3位 笠井さん(N78.8)

【参加者】
吉山さん(学17)、笠井さん(学19)、川村さん(学22)、権藤さん(学45)の4名。(川村恒治 記)

京滋支部

京滋支部から

関西支部へ統合

令和7年11月8日(土)、憲政史上初の女性首相が誕生し、少数与党の政局でますます先行き不透明の中、令和7年鳳陽会京滋支部総会を「都ホテル 京都八条」にて開催いたしました。

出席者は、山口より昨年に引き続き2名がご来賓として出席され、関西地域3支部長(京滋、大阪、神戸)が集まり、大学17期から大学36期まで総勢14名が参集しました。

はじめに、物故者に黙祷した後、高商校歌を斉唱して総会がスタートしました。

この日の支部総会が、前身の京都支部から数えて、通算808回の月例会及び、京滋支部としての最後の総

会に当たり、三坂支部長からは、諸先輩方が築いてこられた伝統を継承するとともに、関西地域の会員が勢ぞろいし、オール関西で盛り上げる為、令和8年4月より京滋支部と大阪支部が統合し、「関西支部」として発足予定の力強い挨拶がありました。



続いてご来賓の有村経済学部長様からは、学部紹介パンフレットにて母校の現況報告と寄付金協力要請がありました。

例年通り、収支報告、監査報告があり、併せて寄贈桜の状況、支部会員動向、次年度行事予定が説明され、最後に京滋支部と大阪支部

を令和8年4月より統合合併し「関西支部」となる決議案を提案し、拍手で承認されました。総会は無事終了いたしました。引き続き、出席者全員の記念撮影を行いました。

参加京滋支部最年長の田房先輩の乾杯の音頭で始まった懇親会では、和気あたたかい雰囲気の中、山口学生時代を懐かしく語り合いました。歓談途中にご来賓の石島事務局長様の挨拶、続いて羽根大阪支部長様、名和田神戸支部長様のご挨拶がありました。

今回は出席者全員が近況報告し、盛り上がりも最高潮のところ、檄を飛ばし、全員で鳳陽寮寮歌、大学学生歌を熱唱し、今年の大河ドラマ「べらぼう」に勝るパワーを爆発させました。

最後に京滋支部最若手出席者の衣川会員からご挨拶と力強い万歳三唱で、来年は新生関西支部総会で元氣にお会いしましょうと約束し、散会いたしました。

【ご来賓】

有村貞則経済学部長
石島克幸(学26)

鳳陽会事務局長

【出席者】(敬称略)

田房茂(学17)、小林貞夫(学

17)、永見忠征(学17)、三坂直彦(学18)、川原章(学19)、野口裕(学21)、河村正昭(学21)、田中誠一(学23)、原英一(学25)、羽根彰(学29)、名和田進(学29)、衣川哲悟(学36)
(川原 記)

岡山支部

山口大学

岡山連合同窓会を開催

令和7年11月30日(日)午後2時半より、岡山駅前の「サン・ビーチ OKAYAMA」にて、第9回山口大学岡山連合同窓会を開催しました。

岡山連合同窓会は、平成13年11月に第1回が開催されて以来、医学部籍仁会・工学部常盤工業会・農学部農会・鳳陽会の各岡山支部が、3年毎に幹事の持ち回りで開催しております。

今回の幹事は農会で、主賓に山口大学谷澤学長をお招きしました。経済学部より有村学部長、鳳陽会より松永理事長にご出席を賜り、鳳陽会岡山支部会員11名を含め総勢50名に近い面々が各同窓会から集いました。連合同窓会の開催に先立って、鳳陽会岡山支部総



ムページのお話。それは、毎日数百件のアクセス数を誇り、一同窓会のものの存在でなく、パブリックな存在になつていふと言う嬉しいご報告です。

連合同窓会では、谷澤学長より「山口大学の今、未来」と題して、講演をいただきました。その後の懇親会では学部を越え、和気あたたかとした宴会となり、午後7時には再会を期して散会となりました。

有志による二次会には、有村学部長、松永理事長を囲み総勢8名で、忌憚ない意見交換、そして有意義な歓談が生まれました。岡山版夜の「長州学舎」です。



次回、3年後の令和10年は、大きな区切りの第10回目です。常盤工業会が幹事となります。初回の開催は

世界の数学者でもいらつしやる当時の広中平祐学長をお迎えして発足した連合同窓会です。連合同窓会は学部を超えての交流が出来る絶好の機会です。若い同窓生の皆さんも参加されることを待っています。

【出席者】(鳳陽会のみ)

三谷文彦(学17)、高見正孝(学24)、雄龍清志(学27)、人見慶一(学27)、高田秀幸(学27)、内藤和博(学32)、野沢佳司(学32)、河原恵美子(学33)、虫明克志(学34)、小林幸雄(学35)、西川由紀(学52)
内藤(学32)記

尾道支部

令和7年度

尾道支部総会

令和7年9月20日、鳳陽会尾道支部総会開催に合わせて、全学部合同の総会をグリーンヒルホテル尾道で開催致しました。残暑厳しい時期でしたが、総勢8名にお集まりいただきました。

午後4時、まず、前支部長村上庄蔵(学3)様のご逝去を弔い黙祷して、小西理文新支部長の開会挨拶より始まりました。

経済学部長有村貞則様と鳳陽会事務局長石島様には遠路よりご出席をいただき、また、ご講演をもちいただき感謝申し上げます。

国立大学では、2000年代から運営費交付金が減額されており、また、少子化から新入学者が減少し、経済学部の学科も集約するなど、学校運営の困難さを改めて考えさせられました。

懇親会は、原田先輩に進行していただき、自己紹介を含め楽しく賑やかに会は終えることができ、来年も再会を誓いました。



尾道市の観光客数は、667万人と2019年の水準まで戻りました。一人あたりの観光消費額は、535円で過去最高になり、外国人観光客数は、台湾が11万人で最多、米国7万人

フランス4万人と続き52万人を超える最多となりました。

【来賓】

有村貞則経済学部長
石島克幸事務局長(学26)

【出席者】(鳳陽会のみ)

原田秀夫(学14)、小西理文(学15)、亀田茂登(学27)

(亀田 茂登 記)

福岡支部

「ゴルフの秋」を大いに楽しむ

○秋の鳳陽会親睦ゴルフ会

9月18日(木)、筑紫丘GCで11名が集い、ゴルフの腕を競い合いました。

当日は雨予報で、朝までは中止も仕方がないかなと思いましたが、幸い何とか天候も持つてくれました。



しかも、連日、気温35℃前後の猛暑が続いていました

が、お蔭様でこの日は26℃27℃と比較的涼しい状態でゴルフができました。

その結果、日頃磨いた腕と相俟ってスコアアップにもつながりました。

【成績】

優勝 脇野賢一(学24)

準優勝 鬼木和夫(学17)

3位 松田和男(学21)

○三経会ゴルフ会

10月16日(木)、ザ・クラシックGCで、山口大学、長崎大学、大分大学対抗の30回記念大会が開催されました。

【団体戦】

優勝 長崎大学

3位 山口大学

12位 上田仁教(学18)

【個人戦】(山大最上位)

12位 上田仁教(学18)

【三経会30回記念懇親会】

11月3日(月)、八仙閣で、三校有志が集い、30回の節目を祝いました。

我が校からも12名のメンバーが参加。鬼丸修二(学12)氏の乾杯の音頭で始まりました。永年の歴史を振り返りながら大いに話も盛り上がりしました。

各校、メンバーが集い58名の参加をみました。我が校は、15名とやや少なめながら、他校に劣らず、ファイトあふれるプレーで健闘しました。

残念ながら、その奮闘も及ばず、結果、他校の後塵を浴びることとなりました。

その後、表彰式では、今回が30回の記念大会ということもあり、優勝校のみならず、三校がそれぞれ校歌を歌い、大いに盛り上がりました。

【団体戦】

優勝 長崎大学

3位 山口大学

12位 上田仁教(学18)

【個人戦】(山大最上位)

12位 上田仁教(学18)

【三経会30回記念懇親会】

11月3日(月)、八仙閣で、三校有志が集い、30回の節目を祝いました。

我が校からも12名のメンバーが参加。鬼丸修二(学12)氏の乾杯の音頭で始まりました。永年の歴史を振り返りながら大いに話も盛り上がりしました。

また、これまで三経会のゴルフ会を支えた方々へ感謝状が手渡されました。我

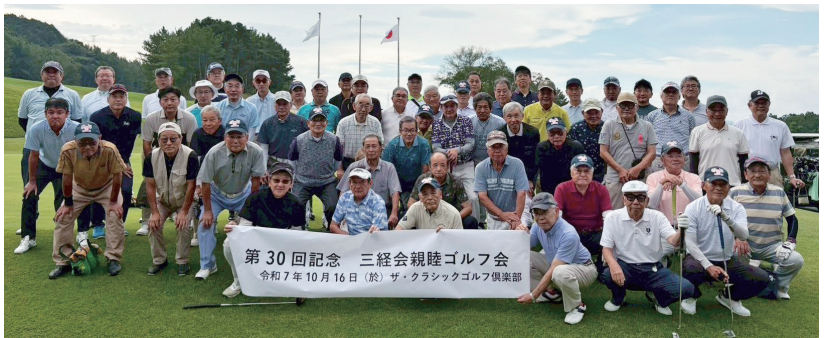
が校からは、鬼丸修一(学12)、八尋洋士(学14)、鬼木和夫(学17)の3氏に感謝の心を込め、手渡されました。

来年は我が校が幹事校となります。優勝カップ奪還を誓い、大いに力をためて、今秋10月22日(木)、ザ・クラシックGCに多くの方々のご参加を願うものであります。

締めは31回大会に皆で元気に集うことを約し、散会となりました。一連の会の参加者は次のとおりです。

(敬称略)

鬼丸修一(学12)、木下兼吉(学13)、八尋洋士(学14)、古澤正道(学14)、井手義和(学15)、鬼木和夫(学17)、林穎二郎(学18)、上田仁教(学18)、加藤久典(学20)、松田和男(学21)、松井茂(学22)、林田光博(学24)、脇野賢二(学24)、山口栄次(学25)、石川利生(学25)、川上知昭(学26)、森川康朗(学29)、阿部義昭(学37)、土坂章久(学38)、福島栄造(学38)、上野賢太郎(学20加藤 記)



三校全体での記念撮影

本誌への広告のお願い

- ★1/3頁 40,000円
- ★1/6頁 20,000円
- ★1/9頁 15,000円
- ★名刺版 5,000円

事務局では、皆様方からの広告掲載の申込みを募集しております。サイズ、料金は上記のとおりです。

令和7年度支部総会・懇親会開催

鳳陽会福岡支部は令和7年12月3日、福岡市内の西鉄グランドホテルにて「令和7年度福岡支部総会・懇親会」を開催しました。

総会・懇親会には山口大学経済学部の有村学部長や本部の石島事務局長のほか、常盤工業会福岡地域同窓会、霜仁会福岡支部、鳳陽会北九州支部の方々にもご出席をいただき、福岡支部会員とともに総勢50名の方にご参加をいただきました。

(学54 大津)

総会では森川支部長が議長を務め、令和7年度の活動報告や令和8年度の計画を審議し、支部会員の皆様にご承認をいただきました。

その後の懇親会では、懐かしい再会や新たな交流を楽しみ、学生



ご来賓7名と大学11期から56期の皆さんにご参加いただきました

熊本支部

支部総会開催

去る11月8日(土)に熊本の中心地水道町の「ホテルメルパルク熊本」にて昨年同様、正午より令和7年度熊本支部総会並びに懇親会を開催いたしました。

秋晴れの好天の中、初めて出席の会員、また久しぶりに出席の会員を含め10名の参加となりました。

全員での記念撮影後、総会に移りました。総会では12年間熊本支部長を務められ、勇退された片山前支部長の挨拶、引き続き前田新支部長の開会の挨拶がありました。新支部長は総会並びに懇親会への出席者の増加を図ることを目標に支部運営を図ることの決意を述べられました。その後、松永幹事による会計報告、活動報告がなされ総会は無事終了しました。

懇親会では柴田先輩(学7)が「出席者は皆、総会や懇親会を楽しみにしており、来年以降もずっと灯をともし継続し続けていくことが大切だ」と挨拶されてから、乾杯の音頭が始まりました。しばらく歓談したのち出席



(前田 記)

長崎支部

支部総会開催

令和7年11月19日水曜日、長崎市眼鏡橋近くの「中華屋竹林」にて、他学部卒業の1名を含む19名の同窓生が参集し、令和7年度の支部総会・懇親会を開催しました。

富富支部長の挨拶で支部総会はスタートし、会計報告等行われたあと、支部長より現状支部の活動が支部総会のみであり、今年度は支部ゴルフコンペを開催しようとの提案があり、満場一致で開催することとなりました。幹事は真浦先輩、3月に開催することを決定しました。

井手先輩の乾杯の発声により懇親会はスタート。例年通り非常にアットホームな雰囲気では進み、お酒が進むにつれ誰もが席を入れ替わり立ち替わりし若手からベテラン各年代入り交えて様々な話で盛り上がりました。改めて、「山口大学」という絆のもと、世代や仕事を超えて集まり語り合う時間は非常に有意義でした。

毎回恒例の自己紹介兼近



況報告を行なったあと、最後に「山口高等商業学校校歌」「山口大学学生歌」を全員で斉唱、長崎支部の活動を今後も盛り上げていこうと誓い、盛会裏にお開きとなりました。

【参加者】(経済学部卒のみ)井手義和(学15)、村山昇(学16)、梅沢成徳(学17)、素山昭(学23)、川橋哲之介(学27)、平野勇介(学28)、富卓(学30)、佐野玄弥(学37)、三浦芳生(学40)、田崎直弘(学40)、溝田照久(学41)、中里誠(学44)、真浦一将(学44)、須藤啓輔(学

45)、辻郷正芳(学45)、岩井信一郎(学45)、栗尾智三郎(学46)、北川義隆(学46) (代表幹事 辻郷正芳記)

宮崎支部

第53回支部総会・懇親会を開催

去る9月6日(土)、宮崎市内の「ホテルマリックス(シーアマール)」にて令和7年度の支部総会・懇親会を開催しました。

参加者は総会・懇親会が支部会員13名。今回は一般社団法人鳳陽会常務理事兼事務局長石畠克幸様にもご出席賜りました。

総会では、川崎支部長の冒頭あいさつに続き、規約により支部長が議長となり総会開始。

議案審議として、第1号議案「令和6年度決算収支報告」説明の後、全会一致で承認されました。

その後、報告事項として「令和6年度活動報告」並びに「令和7年度活動計画及び予算収支報告」を読み上げ、質疑なく無事に総会を閉会いたしました。続いて全員で写真撮影をして懇親会開始。



支部長挨拶に続き石畠常務理事のご挨拶をいただき、その後、代表幹事の西川義久(学35)氏の乾杯が始まりました。

和やかなうちにスタートした宴会でしたが、途中で当日開催された支部ゴルフの成績発表も行われました。ゴルフの参加メンバーは8名。絶好の天気日和でしたが、日中は気温が35℃とプレー中は汗だく、だくで、上り3ホールは皆バテバテの状態。何とか全員無事にホールアウト。優勝は川崎支部長でした。

そして、いよいよ恒例の参加者全員による近況報告が行われると一気に座が盛り上がり笑いあり涙あり。中には学生時代の失敗談や今だから時効で言える裏話などで楽しいひと時を過ごしました。

最後は監事の小野豊昭(学29)氏の締めで来年の再会を約して散会しました。



【総会懇親会参加者名】

前列右から伊藤一輝(学65)、初参加の板坂明英(学39)、西川義久(学35)、石畠克幸(学29)、小野豊昭(学29)、稲田浩幸(学40) 後方右から長友雄大(学61)、小玉和樹(学51)、山本文昭(学34)、永野貴士(学31)、

同期会だより

大学9期

米寿の集い

2020年1月に広島周辺在住の9名が集い、旧交を深めて以来(会報「鳳陽」169号に掲載)、コロナ感染を避けて、昨年10月9日に再び6名が集いました。

いつの間にか米寿を迎えることとなって、そこそこ元気と自認しているものの、昨日の食事を思い出せないのはまだしも、食事をしたことか思い出せぬようになりつつある6名が集い、懐旧談に花を咲かせました。



左から 橋本、濱岡、森元、岸、岡本、山下

就職アドバイザー募集中!

鳳陽会では、山口大学経済学部の支援事業の一環として、就職相談を実施しています。

鳳陽会会員が、就職アドバイザーとなり、それぞれ週1回、2時間程度、山口大学経済学部の就職相談室で経済学部生の就職に関する相談に対応するものです。

現在、就職アドバイザーを募集しています。山口市及び山口市近郊にお住まいの方、また、年齢が67歳までの方でご希望される方は、是非、鳳陽会事務局までご一報ください。

〈連絡先〉鳳陽会事務局
TEL : 083 - 924 - 4361
mail : houyou99@crucus.ocn.ne.jp

70年前の鳳陽寮の思い出や亀山校舎、一の坂川沿いのそぞろ歩きと懐かしむ声が多く、青春のひと時は結構鮮明に語れるところは、山口という第二の故郷を持つたことからでしょうか。一度しかない青春を多くの仲間と暮らせた幸せをこれからも大切に、こころ豊かに過ごしたいものです。

(山下 記)

鳳陽寮OB会

「スペシャルゲスト」

米谷雅之氏、鬼丸修一氏を

お招きして

「開催の想いとお礼」

1960年、小郡から山口線で一路、未知の地山口へそれから一年、経済学部校舎の蓮の堀を横目に歩く、俺とお前。成人式も、選挙も、青春のワンポイントが凝縮された山口。あれから60年・・・!

令和7年9月19日に「鳳陽寮OB会」を開催いたしました。OB会開催にあたり、たくさんの方々からのご協力、本当にありがとうございます。

思えば、2020年8月、今までの仕事から完全に離れた私は「さあこの暇をどうする?」と。勿論、それまでも広島との交流や、麻雀仲間とは2016年から約10年、今も楽しくやっております。また、在宅時には、我が家の家系図に挑戦したり、この度のOB会に際してお配りした『懐かしの名優・映画シーンのカレンダー』を作ったり・・・。

「そんなある日、同期の石橋・石崎君が北寮時代の歯抜けの部屋割り表を持ってきて、「これ、埋めてみようや」と話しかけてきました。何から取り掛かるか?とoriaあえず、一人一人電話するしかなかく、2020年9月から電話作戦に出たのです。なかなか見知らぬ、60年交流のない人に電話するのは、結構勇気のいるものでした。そうこうしていると、当時寮長であった淵上さんより「なんでも協力するから言うて」「きつと貴方の電話を待っている人がいるよ」と心強い励ましをいただくなどがあつて、送っていたいただいた名簿を頼りに部屋割り表作りに取り掛かりました。その部屋割り表がある程度できた時には、あつという間に4年半の月日が経過し、電話した方は80人を超えていました。本当に楽しい時間でした。

また、電話では、面白い会話や「頑張ってください」と励ましももらえました。東京の同期には「資料ありがとう。俺はこの写真や地図を見て、認知機能が活性化したよ。欲を言えば、俺らの演習場だった教育学部一部がはつきりしないことだよ!」とか。また、ある先輩の話では、送った資料写真を、亡き同期の仏前に奥様が備えていたとか。本当にありがとうございます。

鳳陽会事務局の石島さん、山下さんが関係資料をあつてくれたり、山口県立図書館の職員の方々が、こんな地図、あんな写真と、数人がかりで引つ張り出してくれたことは忘れられませんが、それだけでも一日がかりでした。平川の山大資料室では、糸米古墳の資料(鴻の峰から南に向けた遺跡。昭和53年早間田交差点を通る、新国道9号線バイパス工事で発見された、弥生・古墳時代の石棺も調べました。またある時は、早間田の写真を取りながら近辺を歩いていると、「あなたは何をしているのですか」と話しかけられ、市街図にある懐かしいグリーンパーク、山口公設市場や市民会館まで案内、そして説明までしてくださいました。その方は、ピカデリーのあった通りの端にある「西覚寺」のご住職でした。また、淵上さんとの会話の中で出た、下宿していたという押田病院も訪ねてみました。勿論、今はその病院はありませんが、その近所で花屋を営んでいる84歳の女性が「私は当時、その公設市場で野菜と花を売っていました」と話してくださいました。なんと、偶然にもその女性は、先日案内をしてくれた西覚寺のご住職の奥様でした。その後、近所の女性もこの話に加わりました。その方は、1962年に山口高校を卒業し、更には、ご主人は山大の副学長をされていたとのことでした。

また、別の日、同じくピカデリー通りの市街地にある「中尾自転車店」(この話はまた後日)の隣のお茶の店に入つて、煎茶をいただいていると、2023年12月にこのお茶の店をオープンしたというオーナーとそのご友人高津さんが話に加わりました。そして、当時のグリーンパークの話をしてくださいました。グリーンパークの故田村幸四郎社長には直樹さんという息子さんがおり、「現在、このお茶屋さんの税務関係を見てもらっているんですよ」とのこと。事務所は山口高校の近くだと話されました。

また、ある先輩の話には、梅田下宿のオーナーである、ヨシ朗さんの息子さんから連絡があり、「父は先日88歳で亡くなった」とのことでした。そのお嬢さんや息子さんの話を胸に梅田下宿へ行ってみました。昔はどうだったのか分かりませんが、中に入ると広い庭があり、蔵が二つもあり、現在もパーが営業中でした。庭は手入れされており、昔のままのようない気がしました。



山口大学鳳陽寮OB会 令和7年9月19日(金) 12・13・14期 於：山口市湯田温泉「セントコア山口」

- 樋口臣男(04) 菅原道彌(04)
- 小川嘉彦(04) 川崎正比古(04) 寺田明正(04) 守山茂(04) 木村通正(04) 田中康夫(04) 河合慶司(04) 岡田俊二(03)
- 山本壽一(04) 木下兼吉(03) 西田隆(03) 石橋士郎(04) 西岡宏(04) 堀切雅晴(03)
- 岡田四郎(03) 石松徹也(03) 森耕作(03) 鬼丸修一(02) 米谷雅之(02) 淵上洋一(03) 松本孝亮(03) 神代二郎(03)

年に店を閉じたとのこと、道場門前の文榮堂の話もありました。話の一つ一つが本心に懐かしいものでした。

この山口の街を歩くと、不思議な感覚、今、私が忘れかけている景色が「忘れるなよ」と言わんばかりに迫ってきます。タイムスリップするんです。今も、1960年代の鳳陽寮が、私が毎日帰ってきた鳳陽寮が「いつでも帰つておいで、どうぞ・・・」と山口の皆様、貴重なお時間をありがとうございます。また、いつか話の続きを是非聞きたいです。

最後になりましたが、この「山口大学鳳陽寮OB会」では、不慣れな私の進行をフォローし、盛り上げてくださった参加者の皆様には心から感謝いたします。

その後も、ご連絡いただいた方の中に、二次会の話が詳しく書かれていて、淵上さんをはじめ、皆様のおかげで、大変楽しい時間を最後まで過ごすごうございました。ありがとうございました。ありがとうございました。

やむなく参加できなかった方々からも励ましの言葉をいただきました。開催ま

での5年間で振り返り、この歳になって、いや、この歳だからこそ、人の心の深さと面白さ、心に沁みる高揚を、同期の友人が言うところの認知機能の活性化を感じられた会でした。そして、変わりなく深く見守ってくださった先輩の米谷さん、鬼丸さん、ありがとうございます。実務の面で協力いただいた大阪の岡田さん、広島同期の小川君、その他広島の方々。山陰から度々ご協力くださった守山君、また、遠方よりご参加いただいた松本さん。資料を送ってくださいました黒河君、琵琶湖畔よりゴルフ・

体育会の写真を送ってください、ご参加いただいた森さん。1962年当時の寮祭の優勝パレード(南寮)の写真を提供してくださいました木下さん等々。皆様全員のお力添えによってこの会を終えることができました。本当にありがとうございました。またいつか、ここに書ききれなかった話の続きができれば良いなあと考えております。皆様、本当にありがとうございます(学14 菅原道彌)

大学29期

北海道同期会開催のご報告

2025年9月12日(金)に北海道で29期生の同期会を開催しました。

そもそもこの話は2024年6月の広島での鳳陽会全国総会で、29期生が集まったことに始まり、北海道支部平川さんから、新人がなかなか北海道にこないとの話が出ました。2026年は卒業45周年にあたり、その前年祭として我々が行って盛り上げようと、同席していた29期の面々と悪乗りしたのです。であれば、鳳陽会のお力も借りて、できるだけ多くの人に声を掛けましょうと、会報『鳳陽』にも掲載していただき、2025年1月に住所が判明している方々に郵送のご案内しました。その数約200名。その後、東京での全国総会の時など、ことあるごとにお誘いしました。当初は10名でもいいやいや5名でも集まればいいかと思っておりましたが、16名が集まりました。加えて4名の奥様方も一緒に

れました。

さて、9月11日に早めに現地に入って準備万端、と思ったのも束の間。当日は羽田空港が局地的集中豪雨に見舞われました。その結果、全国の空港への機材が間に合わず、北海道千歳市での集合が大幅に遅れることになりました。にもかかわらず、南は奄美大島から福岡、山口、大阪、東京から皆さんが、北海道千歳市に集まってくださいました。残念ながら、羽田空港の雨で機材が揃わず欠航になり泣く泣くキャンセルされた狩野さん。直前の怪我で欠席となられた中谷さん。ホストの地元の平川さんはご家族の都合で欠席。いろいろとアクシデントはありましたが、ともあれ、千歳市で集合。9月11日は前夜祭を早乗り組で開催。同期生の奥様方も参加して北海道の素材を使った料理に舌鼓を打ちました。翌9月12日は快晴に恵まれ、『北海道国際カントリークラブ 島松コース』でゴルフを楽しみました。

その夜が本番の同期会です。さすがに奥様方はご遠慮されましたが、総勢13名が集まり、昔にかえって盛り上がりました。メンバーを見ると、これは山本ゼミのOB会かと心配していましたが、馬渡ゼミの勢力も強く、皆さんゼミの思い出、絆は強いのだと改めて思いました。また、大学には行っていない人もテニスコートしか行っていない人も、プールに入り浸りの人、まじめに勉強してその後医学部に入っで、ほとんどの人が初対面でしたが、一気に打ち解けた長年の親友のような盛り上がりでした。まさに『旧くて新しい友人』のお付き合いです。さらに翌日は『恵庭カントリー倶楽部』でのゴルフ組、支笏湖、エスコンフィールドを巡る観光組、自由行動組に分かれて、各々が北海道を満喫できました。



突然の悪乗りから始まった同期会でしたが、終わってみれば本当に楽しいものでした。ご参加いただいた方々、ご協力いただいた方々にこの紙面をお借りして心からお礼申し上げます。 さて、今年(2026年)は卒業45周年。今度は山口で会いましょう、となりま

【参加者】(順不同、敬称略) 植田宏治、草野浩一、米田安宏、正久哲也、床本隆夫、名和田進、弘津和徳、松尾哲夫、水落章、森川康朗、吉山文彦、吉田佳司、羽根彰、プラス奥様方 【出席予定でしたが残念ながら欠席】(順不同、敬称略) 狩野高志、中谷洋一、平川雅晴 (羽根彰 記)

寄付金納入者

(ご芳名(敬称略))

令和7年12月15日現在

○寄付金

学16 土屋 忠男
学32 N K 生
学33 原 秀樹

動 静

住所変更

学7 野口 武彦
学21 河村 正昭
学22 大塚 三郎
学24 梅津 武
学25 木下 信一
学31 武波 伸夫

住所不明者

会報が返送されます。
住所をご存知の方はお知らせ下さい。

学11 日向 宏

学35 藤村 憲司
学37 荒巻 哲也
学40 安達 一樹
学41 川野 真嗣
学41 山中 茂雄
学46 三浦 寛之
学55 渡辺 彩
学59 佐藤 彩
学60 花岡 翔太
学61 磯村 周平
学73 細井 優希
学73 山下 紗和子

学12 梅田 幸男
学71 上田 雄基
学71 重松 朋果
学71 葉山 景子
学72 池田 颯
学72 石田 大智
学72 馬屋原麻衣
学72 大森朱寿子
学72 関 猛志
学72 谷野 愛斗
学72 山下 怜哉
学72 山本 直生
学72 山本 悠真
学73 渡辺 快斗
学73 坂口 雄大
学73 野村 萌々香
学73 原田 唯
学73 渡瀬 就月

謹んでお悔み
申し上げます。



★高商経専の部

松本 卓臣 (高商34) 7・10・6
弘中 正則 (経専40) 7・6・25
増沢 秀典 (経専42) 7・8・21
三木 公 (経専43) 7・9・14
大浜 博昭 (専修16) 15・12・15

★大学の部

濱野 了一 (大学1) 7・ |
武甕 昭雄 (大学2) 7・8・ |
生田 為成 (大学4) 6・7・22

安藤 伸吾 (大学5) 7・9・14
小山田利彦 (大学6) 7・8・31
中川 弘喜 (大学7) 7・2・7
久野 健治 (大学8) 7・2・7
志賀 憲正 (大学9) 5・12・25
天野 武昌 (大学10) 6・8・10
城谷 昌介 (大学10) 4・12・5
田中 建一 (大学10) 7・12・5
東 計喜 (大学11) 7・ |
藤井 寛 (大学11) 7・6・29
佐々岡幸作 (大学14) 7・ |
江村 正博 (大学18) 7・ |
白木 哲彦 (大学29) 7・2・ |
浅野 誠 (大学30) 7・ |

1965年開催

第11回西日本大学生経済ゼミナル山口大会

60年後の回想録

学部14期卒の私達にとつて令和7年度の今年は、卒業して丁度60年の節目の年。4年生の在学時、6月5日から4日間、タイトルの通り、日本経済新聞社の後援による、山口大会の主催受け入れ担当の責務を果たした。国公立大学の加盟40校のうち31校による1500余名の学友参加を実現し、一般討論会、24部門別討論記念講演、総括会議が実施された。その内容詳細はA4サイズ、224ページの報告書として編纂印刷されて、現在でも閲覧可能である。

設が主会場となり、24の分科会は学部の本館全体が活用された。大会初日の開会式、一般討論、レセプションは小郡の県農業会館講堂を借用する必要があった。当時の経済学部在籍の学生数は約700名前後であり、その2倍を超える参加者の大イベントであったことを言えば、学部在学学生はもとより、当時の岡倉経済学部長を筆頭に教職員の方々も参加された学部の総力を結集した大事業であったことが想起される。



一般討論会

た、レベルの高い討議の応酬により、一般 部門別、討議内容の充実を図った事
③特別記念講演、一般討論部門別討論の内容を細大漏らさず一冊の報告書に8か月かけて編集完成して、次世代への検証に耐える内容とした事。



報告書表紙

当時の山口市は県庁所在地とはいえ、人口は10万人にも満たない小都市であった。市立の公会堂、大ホールなどもなく、当時は大学の部活の音楽定期公演等は、市立の白石小学校の講堂を借用しており、今回も部門別会議、記念講演はこの施

一般討論会のテーマは「日本資本主義の現段階―世界経済の新展開の中で」となっており、特別記念講演会も学会を代表される著名な3名の先生方をお招きしての企画であった。報告書は60年の歳月を経て、一見して色褪せた経年劣化のただの古書籍と思いきや、内容を数回通読して、当時の時代の諸般状況からして、
①よくぞ組織運営力の見事さを発揮しこの偉業を達成した事
②当時の経済状況を反映し

要約すればこの3点に特筆され、これを可能・実現したのは、我ら同期の仲間であり、この山口大会の実行委員団を構成する真鍋多喜男をトップとする7人の委員の獅子奮迅の活躍、並々ならぬご尽力の賜物であったと理解できる。
真鍋委員長は、本大会の挨拶文の中で山大が、西日本地域のほぼ中央部に位置する地の利の観点から、本ゼミナルの場所を提供するだけでなく、内容にお

いても充実すべく、本大会に先立ち3回の加盟校会議を開き、共通認識を得るべく討議内容の事前準備に奔走苦心したと述懐している。

テーマ審議会の実行委員長であった品川昭が当時を懐古して曰く「確か3年生の時、日本は空前の証券不況に見舞われ、山一証券が翌年に実質経営破綻、日本経済は不況のど真ん中に陥り、その後の長期停滞か？一般的な景気後退局面か？が一般討論会の席で熱気をおびて活発に議論された。この年に初めて赤字国債が発行されて日銀特融がなされ、この不況を凌ぎ、その後は再び力強く高度成長の道を歩んだ」。この彼の回想からも1965年は、奇しくも日本経済の歴史的転換期であったと思われる。

実行副委員長の諸熊広志、安藤健二の二人は報告書の編集後記欄にて、本大会の総括会議では山口大会は『質的にも量的にも成功であった』と評価されたと記して、大会終了後8か月をかけて、報告書の編集印刷完了までの数々の苦勞話を吐露している。活字として日の目を見ることになる総括報告書

となれば、内容・文脈の誤記誤字は許されず、編集にあたっては予想外の時間と手間を要した。当時は現在のように、電子ファイルをお互いが簡単にメールで送信するわけではなく、すべて手書きの紙資料のD&B送信であり、すべてが手作業で、なかには判読し難い癖字もあつて、その確認作業にも無駄な時間を要した。さらに実行委員の殆どが4年生で、就職活動も大会開催時期と並行していた。この年は不況到来のため就職前線も芳しくなく、4年生の我々は苦戦を強いられた事情もあつて、この残務整理作業が遅滞した要因ともなり、この総括報告書完成までの悪戦苦闘振りを二人は赤裸々に語っている。

加盟校会議総括で高く評価された山口大会で、その資金面を担当した責任者が泉植生財務部長であった。自前の受入会場設備では足りず、外部施設の借用となり、学会を代表する著名な講師陣の招聘、さらには参加者の交通移動費用等、資金面の問題は当初から大いに懸念されていた。しかし、彼によれば、資金集めに山

口県内を東奔西走したが、予想以上に好意的に各企業団体から全面的に協賛して貰い、赤字を懸念しての苦勞体験は、幸いにして特に無かつたのではと述懐している。報告書の「賛助者ご芳名」の一覧には日経新聞社をはじめ、県内の有名企業、その他50社の協賛があつた。このプロジェクトに対する一般世間の期待と関心の大きな事の証左であつたとも云えよう。

企画部長の竹石賢治、渉外部長の富田俊彦の二人も資金集めに奔走した仲間である。記念講演の講師の選定から、歓送迎の諸事も担当した。富田の記憶によれば、3人の講師の先生方を小郡駅に、遠く東京、関西からの長旅(当時はまだ山陽新幹線も開通しておらず)のお出迎えに、幟の旗を立てて大歓迎の意思表示をしてお迎えしたと、当時を懐かしく回想している。

講師陣の一人の伊東光晴先生は、38歳の若手ケインス経済学の第一人者であられ、あれから60年の歳月が経つ現在もご健在です。そして、山口大会を推進した7名の元実行委員の仲間も

全員がご健在です。このような大偉業の達成は、経済学部での旧制山口高商時代からの、伝統的な力強い底力の發揮によるものとも言えるでしょう。



大会実行委員会役員紹介

筆者の私はこの山口大会で24分科会の一つ金融部会(安田ゼミ)の議長を担当。たまたま昨秋に、自宅でせつせと断捨離に励んでいた折に、古びたこの懐かしい報告書を発見し、内容を一覽して感激すること度々。上述の7人の同期仲間による、幾多の困難を克服して実現出来た、輝かしい足跡を讃えて、これを誇りとし、さらに鳳陽会OB諸兄へは、今にして思えば私達14期卒の青春時代賛歌とも云える回想録としてご報告となりました。(敬称略)

14期卒・東京支部OB会 守山 茂(広報担当)

ゼミだより

吉村ゼミ

吉村弘先生を囲んで 放談会を開催

令和7年11月28日(金)、18時半から山口郷土料理ヤムヤム(大阪北新地)で、吉村ゼミOBが、吉村先生を囲んで集まりました。出席者は、吉村先生、大学25期から54期までの関西在住者を中心としたゼミOB11名、大阪支部関係者4名の計16名でした。



藤村氏による卓話

石川浩氏学37・藤井ゼミから、山口県の観光政策や企業誘致等の取組についてお話をいただきました。

皆さんお酒を飲みながらも活発に質疑を交わされ、吉村先生からも国内外の地方の在り方について解説をいただくなど、当時のゼミや飲み会で語り合ったシーンを思い出す場となり、たいへん楽しく充実した時間を過ごすことができました。



吉村先生を囲んで飲談

今回は、鳳陽会大阪支部事務局等関係メンバーのご協力により、このような場を開催することができました。次回以降は、今回参加できなかったメンバーも含め、もっと多くの参加者で盛り上げられる社会人ゼミ放談会になることを願っています。(学40 富永 信治)

※吉村ゼミの方、特に関西在住の方、吉村先生は大阪在住です。先生へのご連絡につきましては、本部までご連絡ください。

寮歌祭

—日本寮歌祭開催—

♪東京支部有志が

山口高商の旗掲げ

鳳陽寮寮歌熱唱♪

第65回日本寮歌祭が令和7年11月23日、東京・日暮里のホテルで開催された。北海道から九州まで全国の大学の同窓生が参加。鳳陽会東京支部の有志は伝統の山口高商の旗を掲げ、鳳陽寮寮歌を熱唱した。



鳳陽寮寮歌を高唱

の塩塚がオレンジ色のハッピー姿で壇上に立った。声高らかに檄を発する。

「烈風吹きさすふ晩秋、

我ら北の大地、南の海原より、広陵たる武蔵野に集

い来ぬ・・・」

檄の節目、節目に参加者

たちが「ウオー」と雄叫びを

上げる。会場全体が一体感

に包まれ、高揚していく。

そして参加者全員で乾杯

いよいよ、寮歌高唱が始

まった。各大学の同窓生は

ハッピーやハチマキ、学帽、

マント姿で壇上に上

がり、母校の寮歌を

次々に歌っていった。

◆明治時代の寮歌

山口高商の伝統を

受け継ぐわが山口大

学経済学部同窓生

は前半に登場した。

今回の日本寮歌祭

には学6期の大先輩

から40期の現役世代

まで寮歌を愛する有

志が結集した。同窓

生は山口高商の校章

が入ったオレンジ色

のハッピーを着用して壇上に

立った。山口高商の旗を誇

示する。

長崎大学経済学部(長崎

高商)や小樽商科大学(小樽

高商)の同窓生らも応援に

駆け付けた。両校とは高商

つながりで交流が深い。

さあ、準備は整った。塩

塚支部長が檄を発する。

「明治維新の策源地、長州

山口に、土魂商才の学徒あ

り・・・」

ここでも檄の合間、合間

に「ウオー」と雄叫びをあげ

る。

同窓生は明治時代、佐々

政一作歌の鳳陽寮寮歌「花

なき山」を1番から4番ま

で熱唱した。

「花なき山の 山かげの

月も宿さぬ川の辺の

はせに立ちたる 学び舎に

起き伏す友よ いざつど

へ」

寮歌を歌い切った。会場

から大きな拍手が沸き上が

る。同窓生たちは意気揚々

と壇上を降りていった。

鳳陽寮のストーム

伝統を誇る鳳陽寮は

1970年代まで山口市亀

山の近くに健在だった。鳳

陽寮は南寮、中寮、西寮、

北寮、そして西北寮の5寮

で構成されていた。それぞ

れの寮に寮長がいて独自の

寮風、寮歌を受け継いでい

寮生は入学早々に行われる

歓迎コンパで先輩から寮歌

を教えてもらう。鳳陽寮寮

歌「花なき山」、山都道遙

歌、そして北寮や南寮、中

寮などの寮歌も覚えた。

寮生は一の坂川沿いの惣

野旅館でコンパを行う。し

たたかに酔い、昂然とした

気分で鳳陽寮に戻って来る。

さあ、ストームだ。北寮

生は南寮、中寮、西寮、最

後に西北寮に押しかけ、肩

を組んで寮歌を歌った。

日本寮歌祭に参加してあ

のすばらしい青春の気分が

復活した。



日本寮歌祭に参加した東京支部の有志

鳳陽寮は閉寮となり、姿

を消した。だが、寮歌は山

口大学経済学部の同窓生に

愛されている。

同窓生諸君

伝統の旗を高く掲げ、寮

歌を歌い継いでいこうでは

ありませんか。

(東京支部 塩塚 保)

ジョンソン先生に関する情報提供のお願い

私は学部20期卒業生の吹春俊隆です。大学に居られたV. E. ジョンソン先生に大変お世話になりました。

先生は山大で、アメリカのスタンフォード大学等から学生を日本に呼び寄せ、夏休みに英会話クラスの形式で日本人学生との交流に力を注がれました。それ以外にも、ほぼ毎週、糸米にあった宿舎で少人数の日米学生とパーティを開かれました。

山大にもかつて存在したWorld University Serviceを再興したいと更に南カリフォルニア大学等からも学生を夏休みに呼び寄せ、韓国の大学との交流に力を注がれました。私もこの時、板門店を見学しました。

先生は1967年に定年で大学を去られた後、暫らく京都の相国寺で過ごされ、アメリカで亡くられました。その先生にお世話になった日米の関係者7人でエッセイ集を2018年に作成しました。このエッセイ集をもっと拡張したいと思っています。先生に関する情報をお持ちの方の情報をお待ちしています。

- ・連絡先：吹春俊隆(大学20期 昭和47年卒業)
fukiharutoshi@yahoo.co.jp
- ・「ジョンソン先生の思い出」エッセイの収録先：
https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/274811/c107876392c829825587a658b0f9c166?frame_id=695189

戦後80周年
私の戦争回顧

令和7年は、昭和100周年、敗戦80周年に当たる年であった。以前は、一世紀って、とてつもなく長い年月と思っていたのに、今日95歳ともなると100年なんて、大した期間ではないと感じるようになった。

私は旧制下関中学3年生で終戦を迎えた。3年生になると学徒動員令に基づき、各種軍需工場出向を命じられた。手押しトロッコによる高炉への石炭搬送は、栄養失調気味の15歳の少年には、いささか過重であった。週6日の報酬なき労働で、授業は完全放棄させられた。

80年前の8月15日正午、派遣先の工場広場に集められ、昭和天皇のポツダム宣言受諾のラジオ放送を涙ながらに聞いた。ついに、戦争は終わったのである。以後、毎夜の空襲警報による睡眠不足から解放された安堵を覚えたのも事実である。郊外にあった自宅は幸いにして焼夷弾爆撃を逃れたが、市内中心部はほぼ全焼

した。国民の戦意をそぐべく行われた木造家屋への無差別焼夷弾攻撃によって、大中市は区別なく空爆の対象とされた。大阪市内は昭和20年3月の大爆撃で壊滅的打撃を受けて焼け野原となり、梅田から心齋橋を見通せるほどであった。

関門港には満州、朝鮮からの穀物ほか戦略物資が陸揚げされていたため、B29爆撃機による機雷投下で海峡は完全に封鎖された。ドーンと大きく響く貨物船の触雷が相次いだものである。



B29による盲爆

同じ工場で働く旧制高等学校生から、こっそりと「日本は、近いうちに負ける」と告げられ、朝ドラ「あんぱん」のノブさん同様「神州不滅、神風の襲来」を盲信していた軍国少年にとっては物凄いショックであった。

戦中戦後の数年間に互る食糧不足も地獄であった。現在の中東ガザ地区同様、食べ物がないこと、飢えとはどんなものかは、未経験者には想像がつかないようである。代用食と称して、お米の代わりにサツマイモ

がしばしば配給され、其のたびに学校は休講となった。黒柳徹子さんが回顧するように、炒った大豆10数粒が、一日の食料の時期もあった。翻って、開戦前に日本の

負けはわかっていたと伝える「昭和16年夏の敗戦」(猪瀬直樹著 中公文庫)に記述のある、陸軍省、海軍省を含む若手官僚エリートからなる「総力研究所」が行なったシミュレーションでは、「日本は緒戦の奇襲攻撃で

勝利するものの、以後は国力の差から劣勢となり、敗戦に至る。」とあるが、これは少数意見として無視されようである。

戦後これまでに発表された、いわゆる歴代首相談話の中で、アジアの人々に与えた損害と苦痛に反省とお詫びを表明したのは、1995年の村山首相、2005年の小泉首相であり、安倍首相の戦後70年の

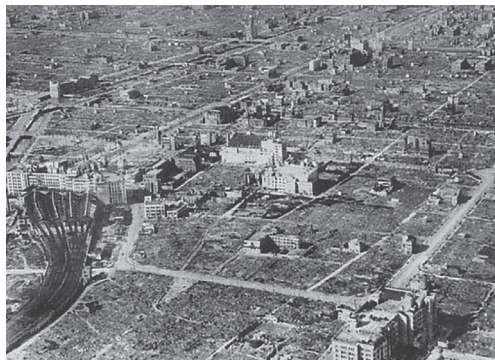
2015年談話は、「深い悔悟」を表明することにより、これまでの政府見解の集大成としたといわれている。

筆者が解せないのは、終戦へのシナリオなしで無謀な戦争に突入し、その上、ポツダム宣言受諾を半年も遅らせた当時の政府の優柔不断と怠慢を批判する声を寡聞にしてあまり聞かないことである。ドイツは、戦争犯罪人を自国で裁判したと聞く。

歴史に「if」は許されないと知りつつ、仮に、である。もし、1945年初頭に降伏していたら、広島、長崎への原爆投下はなかったであろう(約20万人の犠牲者)、大都会の焦土化も避けられ

たであろう(東京だけで15万人、硫黄島(約2万人)をはじめ、いくつかの島嶼守備隊の玉砕も、わが国固有領土沖縄での激戦(約20万人)も避けられたであろうし、特攻隊に殉じた前途ある青年約6千人の半強制的自殺攻撃も無かつた

だろう。さらに、満州在住邦人70万に強いられた苦痛、特に



焼け野原の大阪中心地

ソ満国境からの引揚婦女子への暴行事件や在満州守備軍、約60万に課せられたシベリヤその他での戦後強制労働も回避できたであろう。(注：在外軍民帰還者は630万人、うち民間人320万人と言われる。)

我が国には、「過去は水に流す」伝統があると許されるのだろうか、貴重な財産と生命を失った幾多の犠牲者に対し、遅まきながらでも国からの哀悼の辞は期待できないのであろうか。

和泉 清(経専44) 以上

(注)卒業同期生184名中、昨年10月時点での生存者は47名とのこと(事務局より)

本号の内容

新年のご挨拶	1~2
学園だより	3~5
支部だより	6~10
同期会だより	10~12
動静	13
1965年開催学生ゼミナール 山口大会回想録	13~14
ゼミだより	14
寮歌祭	15
ジョンソン先生に関する 情報提供のお願い	15
戦後80周年 私の戦争回顧	16

事務局から

2026年の干支は、丙午(ひのえうま)です。丙は「炎のように燃え広がる火」、午は「真夏の火」を意味します。火の力が重なる干支とされ、勢いの強さや激しさ、情熱を象徴するといわれています。

かつて、根拠のない迷信から不吉とされ、1966年前回の丙午には出生数が大きく減ったことでも知られています。

2026年は、炎のように勢いのある躍動する年となり、強く豊かな日本を目指す国づくりが進んで欲しいと願っています。(Y)